

令和2年度を振り返って

令和2年1月、突然、中国を発端にしたCOVID-19の流行が始まりました。このときから、当院においてもCOVID-19との戦いが始まりました。令和2年度を振り返ってみると、暗闇の中をジェットコースターで駆け抜けていったような、そんな1年だったように思います。



当院は第2種感染症指定医療機関として、国内が検疫レベルの対策（水際対策）を行っている早期から、COVID-19への対応について検討し、体制を整備してきました。広島県内での対応は当院が初めてであり、感染管理をはじめとし、あらゆることに対して試行錯誤しながらの対応でした。未知の感染症であるがゆえに情報が氾濫し、大きなクラスターが発生してしまうと、状況は刻々と変化し、明日、明後日の予測も困難な状況となりました。大きな波が押し寄せてくると、その波に飲み込まれそうになりました。それを回避するため、二度にわたり5階病棟を閉鎖することを余儀なくされ、手術や障害児（者）短期入所、人間ドックの受入れ中止等、従来の診療ができなくなりました。看護体制についても同様に、COVID-19への対応を強化するために、看護体制を何度も再編し、看護科の皆さんには多大なる負担をかけました。最前線で戦っている皆さんをはじめ、多方面から支えてくださっている皆さんも含め、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たす、「やらねばならない」という強い使命感を持って、尽力いただいています。本当に耐え忍んでいただきました。看護科全体が一丸となって戦っていることを実感し、感謝してもしきれない思いでおります。本当に素晴らしい皆さんと一緒に戦っていけることを誇りに思っています。ありがとうございます。

今年に入り、新型コロナワクチン接種開始という朗報が入りました。当院においても、最前線で勤務する医療従事者として、他施設に先立って接種をさせていただきました。また、高齢者を対象とした接種も随時開始されます。コロナ収束に向け、暗闇の中の一筋の光を感じております。

今後もCOVID-19との戦いは続きます。舟入市民病院看護科の底力を発揮し、コロナ収束に向け、戦っていきたいと思います。合言葉はCOVID-19に勝つ！

広島市立舟入市民病院
総看護師長 森 麻美